

医療センターの建て替え及び増床の必要性について

現状の主な課題の影響

平成26年度に実施した「船橋市立医療センターの建て替え検討のための基礎調査」(以下「基礎調査」という。)では、下記のような課題の影響が挙げられた。

①設備の老朽化 ⇒ 救急部門等の一部機能停止の恐れ

- ・救急部門等において、配管からの漏水や空調設備の停止が生じており、今後、一部機能の停止等の恐れがある。

②施設の狭隘化 ⇒ 医療サービスへの対応が困難

- ・増築のスペースがないため、医療ニーズに対応した増改築が困難である。
- ・外来診察室が増設できないため、患者の待ち時間に影響が出ている。
- ・検査室が増設できないため、迅速な検査に影響が出ている。
- ・初療台数不足、手術室不足等により、救急受け入れが困難なケースが発生している。
- ・手術室の狭隘化により、最新の高度医療機器等の導入が困難なケースがある。

③施設機能の分散配置

- ・施設機能が分散しており、わかりにくい配置となっている。

④災害拠点病院としての機能

- ・ヘリポートが敷地外にあるため、緊急時の患者受け入れに課題がある。

⑤駐車場の分散配置

- ・駐車場が分散配置され、病院からやや離れた場所もあるため、患者の負担が生じている。

⑥医療スタッフの労働環境

- ・医療スタッフの増員により、医局スペース、休憩スペース、当直室が不足している。

【調査結果のまとめ】

今後の更なる船橋市立医療センターへの医療ニーズ・期待に応えるためには、施設の「老朽化・狭隘化」並びに「非機能性・医療機能の劣化」を解消する必要があり、全面的な建て替えへの必要性が検証された。(基礎調査より抜粋)

現在医療センターが担っている役割を**継続しながら発展**させていく
(ICU・ACU・SCUの充実、HCUの新設など)

将来求められる機能として想定されるもの

例)

①周産期

- ・NICUの新設

②感染症

- ・感染症病床の確保

③精神科

- ・精神科病棟の新設

他

医療センターの施設の課題を解決し、必要な機能を拡充するためにも、既存病棟の建て替え及び病床数の増床の必要があるのではないかと。